

企業名:日本ケミファ株式会社

レポート名:コーポレートレポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

日本ケミファ株式会社(以下日本ケミファ)は、製薬会社である。経営理念が「医薬品を中核としたトータルヘルスケアで人々の健康で豊かな生活に貢献する」ということであるから、会社の目指す姿は、「会社で開発した医薬品で病気に苦しんでる人を救う」ということや「会社の医薬品を大量に流通させたい」ということなどだろう。私は、この目指す姿を理解できたとし、実際にそのための取り組みもこの総合報告書の中で拝見できた。まず、この日本ケミファはジェネリック医薬品事業を手がけており、これは安全性や利便性を意識したものである。また会社の伝統である、「アルカリ化療法」や新薬の研究に力を入れている。そして、得られた研究結果を早期に導出することで薬の開発効率を上げることに努めている。以上のことから、日本ケミファは安全性、利便性にも配慮しながら、新薬や新治療法の研究にも力を入れていることがわかり、目指している姿と合致している。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

日本ケミファ独自の強みは総合報告書内で述べられてあった。①新薬メーカーの記述に基づくジェネリック医薬品の開発・製造・販売までの一貫した体制、②高尿酸血症領域の知見蓄積とアルカリ化療法剤の市場価値、③国内外に工場を有し、高い技術力と低コストを両立、④探索機能に特化し効率性と開発確度を追求するベンチャー型創薬研究、という以上の四つである。私はここで会社が長年培ってきたというアルカリ化療法についてより着目した。すると、日本ケミファがアルカリ化療法において重要な役割を占めていることがわかった。日本ケミファは2021年7月1日にがん治療に用いるアルカリ化療法剤の承認を2025年をめどに申請していることを発表した。これに成功したら、がん治療に用いられる初のアルカリ化療法剤であるという。このことから、日本ケミファはアルカリ化療法において他社よりも強く、競争優位性が見てとれる。

3. 競争優位性が持続するかどうか理解できるか

まず、アルカリ化療法剤の面で言うと、まだこの研究は医薬品界では初期段階であると思われるため、日本ケミファの研究の強みは長続きするだろう。海外展開においても強みは長続きしそうだ。日本ケミファは海外での医薬品の販売や開発を活発化させるために、現地の代理店を通して、医薬品販売を展開したり、現地に「海外技術開発部」を設置したりしている。

市場の特徴として、品質確保と安定供給が必要なジェネリック医薬品において自社で開発・製造・販売全てを手掛けているのは圧倒的な強みであり、市場から高い評価を得続けるために、開発リソースの集中と効率的な運用を行なっている。また、販売においてもコロナ禍に対応して Web 面談などを活用して営業をしているように臨機応変な対応ができる。以上のことから、日本ケミファの競争優位性は持続しそうであることが理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

結論から言うと成長できると思う。理由は以下の三点だ。一つ目は、日本ケミファはコミュニティへの参画に積極的だという点だ。コミュニティへの参画として日本ケミファは、地域社会への協力、ボランティア活動への参加、発展途上国への支援活動、ベトナムでの教育支援を主として行なっている。私が、今回好印象を抱いたのはボランティア活動への参加である。中高生時代ボランティアをしてこなかったため、ボランティア活動に携わることに興味があるからだ。また、当社は「ボランティア休暇制度」という制度をとっており、積極的なボランティア活動を後押ししてくれることが魅力的である。二つ目は、日本ケミファの育成制度などである。研修制度の種類が豊富であり、研究者の海外派遣や MBA 取得の支援が手厚く、また TOEIC 受験の補助金支援も行っており、会社内でも成長を見込める且つグローバルでも成長できる。また、従業員の評価の仕方も自分好みであった。業績に連動して評価されるため、モチベーションを高めやすい。チャレンジを奨励しているところもポイントが高い。三つ目は、成長とはあまり関係ないが、ハラスメント対策やダイバーシティ対策、会社の有給休暇制度やワークライフバランスが自分に向いていると思ったからだ。ハラスメント問題、性の多様性問題、過労死問題などの社会で話題になっている問題に対してしっかりと対策しているところがまず好印象である。また、有給休暇や自分に合ったワークライフバランスをうまく活用して、趣味の時間に費やしたり、自分のスキルアップに繋がったりできるところも良いところである。以上のことから、自分はこの会社の中で成長できると感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

まず、この報告書の良かった点は必要な物事をしっかりと明記していた点である。自分の会社の強みを詳細に読者に伝わるように書いてあった。また、コミュニティへの参画といった、会社自体が取り組みとして押して行きたいような活動についても分量を取って述べていたので、会社の良い点などがとてもわかりやすかったように思う。しかし改善点を挙げるとするならば、文章量が少し多かったと言うところだ。医薬品関連の会社であるという特徴柄専門的な説明が多くなってしまうのはわかるが、言葉のみで伝えられても内容を理解できない可能性が高い。そこを、文章且つイラストを使用することによって、内容を柔らかく

でき、読者も読みやすいのではないだろうか。

引用

<https://www.chemiphar.co.jp/ir/library/annual.html> コーポレートレポート

<https://www.mixonline.jp/tabid55.html?artid=71410> ミクス online